

3. トークイン報告

(1). 開会挨拶

鋼橋技術研究会会長 藤野陽三
(東京大学社会基盤学科 教授)

(司会)

本日はご多忙の中たくさんお集まり下さいまして、ありがとうございます。定刻となりましたので、鋼橋技術研究会主催「トークイン・日本の鋼橋を考える」を始めさせて頂きたいと思えます。

本日はたくさんの方に参加ご応募頂きまして、一部の方には補助席にお座り頂くことになりました。また相当数の方には参加をご遠慮頂きまして大変申し訳なくお詫び申し上げます。

それではさっそく開会の挨拶として鋼橋技術研究会会長の藤野先生からよろしく願いいたします。

(藤野会長)



ご紹介いただきました鋼橋技術研究会の会長をしております藤野と申します。今日こういう集まりを持ちましたところたくさんの方に集まっていた頂きまして大変有り難うございます。

鋼橋技術研究会というのは任意団体ですが、実際に橋をつくる方、設計する方、それから我々大学人が集まり、勉強会をやっております。このような催し物にこれほど多くのそして幅広い方にお越しいただいたのは初めてではないかと思えます。

8月1日を境に、社会の人が橋を見る目が変わったような気がします。橋というのは放っておくと落ちるんだという。その後も国内のいろいろな橋の調査も進んで、多くのことが問題になってきました。もちろんかなり前から、建設の時代から橋を守る時代に入ったと言われつつも、なかなかその一歩が踏み出されていないところがありました。技術とか人とかシステムとかの問題があると思うのですが、このような機会に一度皆さんにお集まりいただいて、フラットな立場から、橋って一体これからどうやっていくんだというのを、議論する場を設けたいと思ひまして、この会を開いた次第です。

国交省の方も「道路橋の予防保全に関する有識者会議」というのをはじめました。今日ご講演いただく三木先生、西川さん、それから私も入っております、これから議論を深めていくことになると思いますが、そこでの議論の中でも今日出てくるいろいろな議論もまとめていきたいと思ひます。今日のこの講演会、あとの議論もまた別の形でまとめていきたいと思ひますので、立場は色々おありだと思ひますけども、目的は一体我々の橋をどうするんだと言うことで集約して、自由な立場から活発な議論をお願いしたいと思ひます。

時間は6時までと長くなりますが、ぜひ活発な議論をお願いするということで、簡単ではありますが、最初の挨拶とさせていただきます。